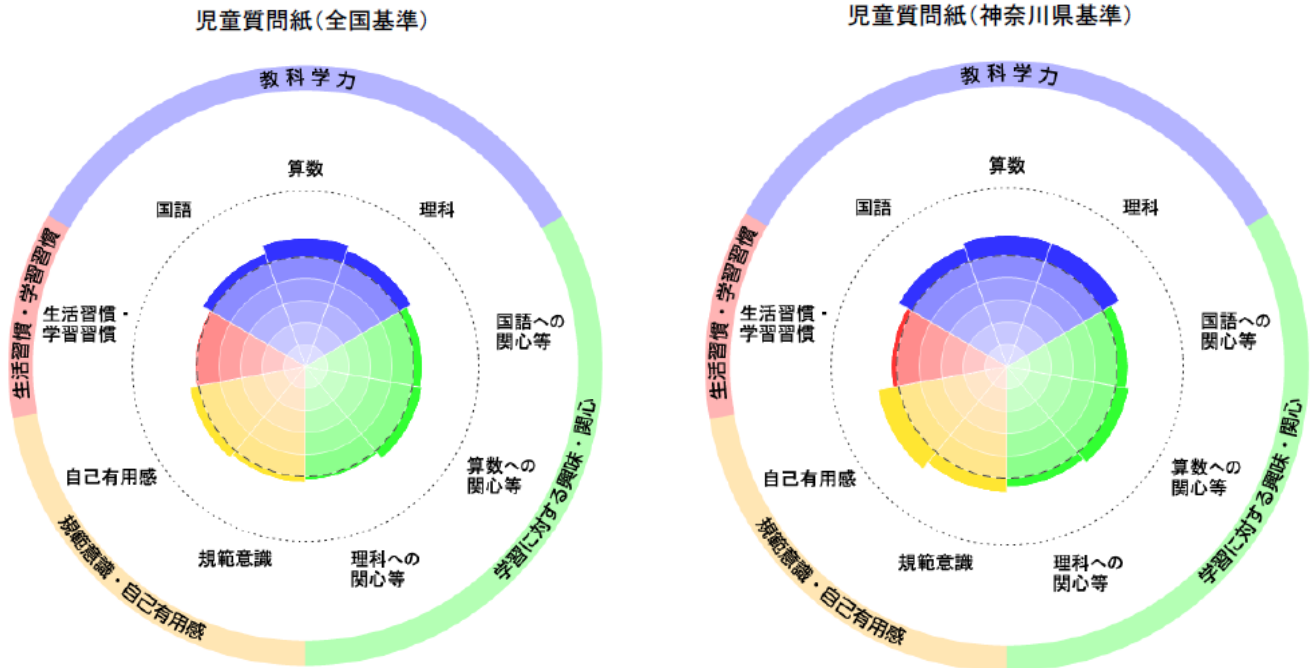


保護者様

横浜市立永田小学校
校長 足立 渉

全国学力・学習状況調査 結果分析について

2022年4月に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果と分析の内容をお知らせします。
《結果チャート》



《教科別学習状況調査結果から》
小学校「平均正答率 (%)」

	国語	算数	理科
本校	69	69	68
神奈川県	65	64	63
全国	65.6	63.2	63.3

【国語】

本校の平均正答率は、全国・神奈川県の平均正答率よりも上回る結果となりました。正答数別分布グラフにて解析すると、全国平均正答数を上回って正答することができた児童は全体の57%程度となりました。

- 「話すこと・聞くこと」の正答率は74%で、神奈川県や全国の平均を上回りました。特に、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」という課題に対しては、正答率が県や国の平均を大きく上回りました。
 - 「読むこと」の正答率は、いずれも神奈川県や全国の平均と同程度でした。登場人物の行動や気持ちや相互関係などについて、叙述を基に捉えることはよくできていましたが、表現の効果を捉えることについては、やや課題が見られました。
 - 「書くこと」の正答率は、56%で、神奈川県や全国の平均を上回りました。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることは7割近くの児童ができていたのに対し、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるという課題は、4割程度の正答率となりました。
 - 「言語についての知識・理解・技能」では、全ての問題で全国の平均を上回りました。文章の中にある「ろくが」や「はんせい」、「したしむ」などの漢字を正しく書くことができました。
- ⇒全体的に神奈川県や全国の平均を上回りました。平均を大きく上回った「話すこと・聞くこと」の指導をさらに強化するとともに、「書くこと」や記述による解答の正答率が上がるよう、授業の中で、文章を書くことを重点的に指導していきます。

【算数】

本校の平均正答率は、全国・神奈川県の前年度平均正答率よりも上回る結果となりました。正答数別分布グラフにて解析すると、平均正答率を上回って正答することができた児童は全体の29%程度、下回る正答数となった児童は全体の23%程度となりました。

- 「数と計算」の正答率は、全国・神奈川の平均を上回りました。かけられる数に空位(0)がある整数のかけ算では、正答率が平均を下回りましたが、二つの数の最小公倍数を求める問題では平均を上回っていました。
 - 「変化と関係」の正答率は全国・神奈川平均を上回っていました。百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題では、正答率が平均より大きく上回りましたが、果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しく選ぶ問題では、正答率が下回りました。
 - 「データの活用」「図形」の正答率は、いずれも神奈川県や全国の平均を上回りました。特に表や円グラフの意味を理解し、必要な情報を読み取る問題、示された作図の手順を基に図形を構成する要素に着目して平行四辺形を選ぶ問題などの正答率は、平均を上回っていました。
- ⇒「知識・技能」「思考・判断・表現」それぞれの観点で、全国・神奈川県の前年度平均を上回ることができました。平均正答率を下回った、かけられる数に空位(0)がある整数のかけ算については、かけ算の性質を生かして工夫して計算する場面を多く設定していきます。また、数量が変わっても割合は変わらないことを問うような問題については、日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう指導していきます。

【理科】

本校の平均正答率は、全国・神奈川県の前年度平均正答率よりも上回る結果となりました。正答数別分布グラフにて解析すると、平均正答率を上回って正答することができた児童は全体の40%程度、下回る正答数となった児童は全体の45%程度となりました。

- 「エネルギー」を柱とする領域の正答率は、全国・神奈川県の前年度平均を上回りました。日光は直進することを理解しているかを問う問題は、全国・神奈川県の前年度平均を下回りました。
 - 「粒子」を柱とする領域の正答率は、全国・神奈川県の前年度平均を上回りました。特にメスシリンダーの正しい扱い方を問う問題は、平均を大きく上回りました。
 - 「生命」を柱とする領域の正答率は、全国・神奈川県の前年度平均を上回りました。問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを問う問題は全国・神奈川県の前年度平均を下回りました。
 - 「地球」を柱とする領域の正答率では、全国・神奈川県の前年度平均を上回りました。特に観察などで得た結果を、結果から言えることの視点で分析して、解釈し、自分の考えを問う問題は大きく平均を上回りました。
- ⇒「知識・技能」「思考・判断・表現」それぞれの観点で全国・神奈川県の前年度平均を上回ることができました。平均正答率を下回った、日光は直進することを問うような知識・理解の問題に関しては、問題解決を通して習得した知識を活用できる機会を設けていきます。また、学習の成果を日常生活とのかかわりの中で捉え直す場面を設定していきます。自分の考えを問う問題に関しては、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して、解決方法を発想し、観察、実験などを行う場面を多く設定していきます。

《児童質問紙から》

- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、お家の方と約束したことを守っている。
 - ・将来の夢や目標を持っている。
 - ・人が困っているときに進んで助ける。
- などの項目で、全国・神奈川県の前年度平均に比べて肯定的な回答が多くありました。

一方で、

- ・土曜日や日曜日など、学校が休みの日に学習をする。
 - ・家で、自分で計画を立てて勉強をする。
- については「あまりしていない」に回答する児童が全国・神奈川県の前年度平均を上回りました。
- ・ICTを活用して調べる、考えをまとめる、友達と意見を交換する。
- については、全国・神奈川県の前年度平均に比べて「月1回」など、少ない回数の回答が多くありました。

⇒「学習習慣・学習計画」については、6年間を通して家庭学習の習慣を身に付け、児童の実態に合った課題の内容や時間の設定、見直しをしていく必要があると考えています。

「ICTの活用」については、主にロイロノートを用いて検索、シンキングツールを利用して考えを深めること、自分の調べたことや考えをまとめ、共有することなど、様々な場面に活用しています。引き続き校内でICTを学習に取り入れるために研修などを行っていきます。